

中部中学校だより

きずな



令和3年9月21日発行
号外【1】
亀山市立中部中学校
亀山市田村町75番地
☎：82-2101
文責：徳田（校長）



中部中HP QRコード

「令和3年度 全国学力・学習状況調査」結果より R3. 5. 27実施

今回の学校だよりは、本年5月27日に全国一斉に実施されました『令和3年度全国学力・学習状況調査』の結果ならびに、その分析等についての「号外」です。「号外」は、2回に分けて発行しますので、じっくりご覧ください。

『全国学力・学習状況調査』は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが主な目的です。中学生は、全国で約110万人近くが、三重県内では15,120人が調査を受けました。（中学校3年生が調査対象者です）昨年度は、新型コロナウイルス感染症による長期休校の影響を考慮して中止しており、今回は調査日を例年より約1か月後ろ倒しするなどして、2年ぶりの実施となりました。



なお、今回の調査で文科省は、「新型コロナウイルス感染症による臨時休業期間の長さ」と各教科の平均正答率との相関関係はみられなかった」としています。

本号ならびに次号（いずれも【号外】）で、本校の調査結果と状況分析、今後の取組等について掲載します。これらを、全ての保護者の皆さんや地域の方々と共有し、本校における今後の学力向上と定着、授業改善や生活・学習習慣の改善を図っていきたいと思います。

1. 学力調査の平均正答率（%）について

教科	国語A		国語B		国語	国語	数学A		数学B		数学	数学
	H29	H30	H29	H30	H31	R3	H29	H30	H29	H30	H31	R3
本校	73	72	64	59	69	59	57	58	39	42	57	56
三重県	76.9	75.3	70.7	59.7	71.7	63.0	65.3	66.6	47.3	45.7	60.3	57.7
全国	77.4	76.1	72.2	61.2	72.8	64.6	64.6	66.1	48.1	46.9	59.8	57.2
全国との差	▲ 4.4	▲ 4.1	▲ 8.2	▲ 2.2	▲ 3.8	▲ 5.6	▲ 7.6	▲ 8.1	▲ 9.1	▲ 4.9	▲ 2.8	▲ 1.2

注1) 「H31」の表記は「H31(R1)」と読み替えてください。

注2) H30までは、国語・数学ともに、A問題（知識・技能等）とB問題（活用等）という区分がありましたが、H31(R1)からは、知識・活用を一体的に問う調査問題となり区分が無くなりました。

注3) 「全国との差」で、▲はマイナスを示しています。

注4) 全国ならびに三重県の数値（平均正答率）の公表は、小数第1位までとなっていますが、本校のものは小数第1位を四捨五入した整数値となっています。

★文部科学省の発表によりますと、全国的な傾向として、中学校の国語では「相手や場に応じて敬語を適切に使うこと」に課題があるとされました。また、数学では「2つの分布の傾向を比べる際の相対度数の必要性と意味の理解」等が課題にあげられました。さて、中部中学校の状況としてはどうだったのでしょうか。（裏面をご覧ください）

★2021年度 中部中学校教育キーワード：「一路邁進（いちろまいしん）」 ※全生徒・全教職員が意識して取り組みます。

2. 学力調査の具体的状況と分析について ※全国との差において、△はプラスを、▲はマイナスを示す

【全般的な状況】

◆国語は、H31 (R1) と比較すると、全国との差が広がっている。学習指導要領の領域等の平均正答率の状況で見た場合、いずれの領域でも全国および三重県の平均正答率を下回っている。特に、全国との差が5ポイント以上あるものは次の通り。

- ・「話すこと・聞くこと」 本校=73.8% (三重県=78.1%、全国=79.8%) ▲6.0%
- ・「書くこと」 本校=50.9% (三重県=55.4%、全国=57.1%) ▲6.2%
- ・「読むこと」 本校=40.2% (三重県=46.0%、全国=48.5%) ▲8.3%

◇数学は、H31 (R1) と比較すると、全国との差が縮まっている。また、H29 や H30 と比較した場合は大きく改善したと言える。学習指導要領の領域等の平均正答率の状況で見た場合、特に、「関数」と「資料の活用」では、全国および三重県の平均正答率を上回っている。

- ・「関数」 本校=59.1% (三重県=57.9%、全国=56.4%) △2.7%
- ・「資料の活用」 本校=56.4% (三重県=54.8%、全国=53.8%) △2.6%

◇無解答（解答用紙に何も書いていない）率を見た場合、数学は、全国や三重県に比べて低くなっている問題が多く、意欲的に解答しようとする様子がうかがえる。



<国語の具体的状況> ※国語の問題数は14問

○国語の問題のうち、全国または三重県の平均正答率を上回っている問題があった。

- ・「随時」の意味として適切なものを選択する △4.0%

●国語の問題のうち、全国または三重県の平均正答率に対して、10ポイント以上マイナスになっている問題が3問あった。(主なものを2つ掲載)

- ・「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く ▲13.2%
- ・参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く ▲12.4%

●相手や場に応じて敬語を適切に使うことが苦手である。(正答率 32.0%)

<数学の具体的状況> ※数学の問題数は16問

○数学の問題のうち、全国または三重県の平均正答率に対して、10ポイント以上マイナスになっている問題はなかった。以前の状況と比べると、大幅な改善が見られる。

○数学の問題のうち、全国の平均正答率を上回っている問題が5問あった。(主なものを2つ掲載)

- ・相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ △9.5%
- ・経過した時間と影の長さの関係を表現する △9.0%

●数学の問題のうち、全国との差が5ポイント以上あった問題が4問あった。(主なものを2つ掲載)

- ・一元一次方程式 ▲6.9%
- ・四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数なることを説明 ▲6.8%

●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できない。(正答率 11.4%)

●正答数6問以下の生徒が32.2% (県 24.5%、全国 25.1%) おり、数学を苦手とする者も多い傾向にある。

『みえスタディ・チェック』の結果について～学ぶよろこび、わかる楽しさを子どもたちに～

三重県教育委員会では、子どもたちが主体的に学習に取り組む意欲を育むとともに、各学校での授業改善や個に応じた指導等につなげるため、平成26年度より『みえスタディ・チェック』を実施してきました。(中学校は1・2年生を対象)今年も、『全国学力・学習状況調査』と同日(5月27日)に、第1回目が行われました。(第2回目は3学期に実施予定)

本校の『みえスタディ・チェック』の結果につきまして、以下に掲載しましたので参考にしてください。 ※「三重県との差」で、▲はマイナスを示しています。

1年生	国語	数学	理科	2年生	国語	数学	理科
学校の平均正答率	68.1%	59.1%	60.3%	学校の平均正答率	67.1%	49.2%	50.4%
三重県の平均正答率	70.0%	60.9%	58.4%	三重県の平均正答率	65.9%	50.6%	51.9%
三重県との差	▲1.9%	▲1.8%	1.9%	三重県との差	1.2%	▲1.4%	▲1.5%

★1年生は、国語と数学が三重県の平均正答率よりマイナスとなりましたが、理科では逆にプラスとなりました。このところ、理科が県の平均正答率より大きくマイナスの結果となることが続いていましたが、今回は改善された結果となっています。

★2年生は、数学と理科で三重県の平均正答率よりわずかにマイナスとなりましたが、国語がプラスとなっています。

